

ISSN 2434-0138

2024年6月10日発行

GENSEI-SEIBUTSU

# 原生生物

第7巻 第1号 (2024)

日本原生生物学会  
*Japan Society of Protistology*  
<http://protistology.jp>

目次

日本原生生物学会第57回大会のご案内

大会長：堀 学（山口大学） ..... 1

**書 評**

「マイクロワールド 微生物大図鑑 電子顕微鏡でさぐる単細胞生物の不思議な世界」

宮澤 七郎・洲崎 敏伸 監修

楠岡 泰（元滋賀県立琵琶湖博物館） ..... 2

若手の会 通信 ..... 4

本会記事 ..... 6

事務局からのお知らせ

庶務 福田 康弘（東北大学）・庶務補佐 杉浦 真由美（奈良女子大学） ..... 11

編集委員会からのお知らせ

「原生生物」担当 柴田 あいか（Arizona State University） ..... 11

## 第57回日本原生生物学会大会のご案内

大会長 堀 学 (山口大学)

第57回日本原生生物学会大会は、11月22日(金)から24日(日)までの3日間、山口市のKDDI維新ホールで開催いたします。また、23日には同会場で懇親会も開催いたします。

若手の会からは、原生生物を実際に顕微鏡で観察できる「原生生物観察ブース」の設置を提案頂きました。発表会場の近くに簡単な顕微鏡を複数設置し、参加者が細胞を直接観察しながら議論できるようにするという趣旨です。

今年は、ニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2024年に行くべき52カ所」で、フランスのパリに次いで山口市が第3位に選ばれました。外国人観光客が押し寄せ、地元は大盛り上がりか?という、選考理由にもなったようですが、なにも変わらず静かで穏やかな状態です。山口市は西の小京都とよばれていますが、本家の京都のように人がごったがえしていることはありません。この数年はコロナの影響でなかなか遠出も難しかったかと思いますが、久しぶりの地方開催となるこの機会に、山口県へお越しいただき、学会終了後にふらっと旅などしていただけたらと思います。

それでは、多くの皆様にご参加いただけますよう、心よりお待ちしております。

## 1. 会期

2024年11月22日～24日

22日(木) 評議員会, 編集委員会

23日(金) 口頭・ポスター発表, 総会, 懇親会

24日(土) 口頭・ポスター発表

最新の情報は下記の大会ホームページで、お知らせいたします。

(<http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~mhorijsp/index.html>)



## 2. 会場

KDDI 維新ホール (<https://ishinhall.com>)

各会議の実施場所についても大会HPにてお知らせいたします。



## 3. 発表形式

口頭発表およびポスター発表

発表演題数により発表方法の変更をお願いする場合があります。

## 4. 参加申し込み

要旨提出と参加申し込みは、準備が整い次第、大会HP上で受付を開始します。締め切りは2024年10月7日(月)(予定)です。

## 5. 大会参加費等

大会参加費等は、参加登録手続き後にお振り込みください。当日参加も受け付けますが、準備の都合上、できる限り事前の申し込みをお願いいたします。

大会参加費:

一般会員 3,500円 学生会員 1,500円

事前登録締め切り後:

一般会員 4,500円 学生会員 2,000円

## 6. 昼食

周辺には、飲食店がそれなりにあります。ただ、スケジュールがタイトとなる可能性が高いので、希望者にはお弁当を手配いたします。お弁当は事前に予約していただき、代金は当日会場にてお支払いください。

## 7. 懇親会

大会会場内にて行います。詳細は後日HPにてお知らせ致しますが、瀬祭などの地酒飲み放題です。

一般会員 4,000円 学生会員 2,500円

## 8. 宿泊

会場周辺には、いくつかホテルございます。ただ、ご存じのように、全国的に宿泊費が高騰していること、また、本学会と同日程で他の学会も開催されることから、お早めにご予約いただくことをお勧めします。ホテル一覧は、大会HPに掲載しています。

## 9. アクセス

JR 新山口駅の新幹線改札口から徒歩数分です。

詳細は、下記URLをご覧ください。

<https://ishinhall.com/#access>

施設周辺には有料駐車場がございます。



## 大会事務局

〒753-8512 山口県山口市吉田1677-1

山口大学理学部 第57回日本原生生物学会大会事務局

電話: 083-933-5719

Email: [jsp2024.yamaguchi@gmail.com](mailto:jsp2024.yamaguchi@gmail.com)

## 山口県の地域情報

山口観光コンベンション協会

<https://yamaguchi-city.jp/convention/>

山口県観光サイト

<https://yamaguchi-tourism.jp/news/fukunokuni>

## 書評

『ミクロワールド 微生物大図鑑  
電子顕微鏡でさぐる単細胞生物の不思議な世界』

宮澤 七郎・洲崎 敏伸 監修



出版社：小峰書店  
 出版日：2024年3月14日  
 ISBN：978-4-33808177-1  
 URL：<http://www.komineshoten.co.jp>

楠岡 泰  
 Yasushi KUSUOKA

元滋賀県立琵琶湖博物館

本書は児童向けに原生生物をはじめ、さまざまな微生物の分類や生活史、環境中の役割、人との関わりなどについて紹介したものである。小学生でも分かりやすいように漢字にルビがふってあり、随所にあるイラストや写真にはいろいろな工夫がなされている。たとえば、写真には走査型電子顕微鏡、光学顕微鏡、内視鏡など、どのような装置で撮影されたかが分かるピクトグラムがついている。

第1章「自然の中の微生物」では池、海、土壌など異なった生息環境ごとに微生物を紹介している。また、くらしの中、動物の中、特殊な環境、にすむ微生物についてもとりあげている。分類は最新の分類体系に基づいており、各生物の項目には系統上の位置が一目で分かるように簡単な系統樹が描かれている。筆者のように古い分類体系が染みついた人間にとって、これは大変ありがたい工夫である。それぞれの微生物に関する形態「からだのつくり」や生活史などのトピックが随所に織り込まれていて、大人も楽しめる構成になっている。トピックの中には最新の研究成果も反映されている。ページによ

ては欄外に「プラス情報」としてちょっとした話題が載っていて、これを読むのも楽しい。

第2章「人間の生活にかかわる微生物」では人間の生活と深くかかわっている微生物に焦点をあてている。微生物の中には病気を引き起こす有害なものもいれば、私たちの生活を豊かにしたり、環境維持に不可欠な有用なものもある。「人間の歴史は微生物との戦いの歴史」というタイトルで、レーウエンフックに始まり最近の新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）まで、人と感染症を引き起こす微生物との戦いの歴史を紹介している。食中毒や感染症の原因となる代表的な微生物の顕微鏡写真や感染の仕組み、症状についても分かりやすく解説していて、医療分野には門外漢の大人にも勉強になる一節となっている。新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）による感染症の症状やワクチンのしくみなど最新の情報も含んでいる。微生物が原因の病気は人間や動物だけでなく、植物にもあり、菌類、細菌、ウイルスなど微生物は、イネやジャガイモなどの作物だけでなく樹木にも病気を引き起こしており、その感染経路やメカニズムについても解説している。

微生物には有用なものも多くあり、私たちの食生活に不可欠な酒、パン、味噌などの発酵食品の作り方や



E-mail: [ykusuoaka@yahoo.co.jp](mailto:ykusuoaka@yahoo.co.jp)  
 Received: 10 May 2024

微生物の役割について紹介している。

土壌中の微生物は落ち葉や倒木、動物の糞や死骸を分解したり、土壌動物との関わりを通して土壌の栄養バランスや粒子性を整えたりして、植物の生長や地球環境維持に重要な役割をはたしていることがとりあげられている。土壌微生物の中には菌根菌や根粒菌のように植物と共生してその生育に重要な働きをしているものがある、と述べられている。下水処理の過程でも細菌や原生物は不可欠な存在であり、下水処理の仕組みや活性汚泥中の微生物の役割についても解説している。

シロアリやウシなどの体内には共生している原生物がいて、セルロースの分解などを助けている。ウシのルーメン（第一胃）の中の繊毛虫は動物の栄養源となる脂肪酸をつくり、ウシは繊毛虫も栄養源にしているという話はおもしろい。

われわれ人間の体内にもたくさんの微生物がすんでいて、中でも腸内細菌は栄養成分の分解、アミノ酸の合成、免疫機能の維持など重要な役割をはたしていること、また、腸内細菌がストレスに効果があるとされる脳

内物質セロトニンの8割をつくっていて、腸と脳が深い関係にある、など興味深い話題も提供している。

微生物の利用法のひとつとして抗生物質生成をあげていて、抗生物質が薬になるまでのプロセスを解説している。

巻末資料「微生物の世界を楽しもう！」では身近な道具を使って微生物を採集し、観察する方法が具体的な図や写真とともに紹介されており、子どもたちをフィールドにいざなってくれる。スマートフォンといなくなったDVDドライブから取り出したレンズを使った「スマホ顕微鏡」の作り方も図入りで解説していて、子どもたちに微生物の世界のとっかかりを提供している。最後にいろいろな光学顕微鏡や電子顕微鏡の仕組みと特徴について解説している。

本書は図鑑としてだけでなく、読み物としても興味深い話題に富み、子どものみならず、大人も、そして研究者も楽しめる一冊である。この本を片手にミクロの世界を探検する子どもが増えるに違いない。

## 若手の会通信

島田 雄斗 (生理学研究所)

原生物学会若手の会 会長の島田 雄斗です。私が若手の会を初めて知り、企画に参加したのは2017年8月開催の「原生物学会若手の会合宿 2017 in 淡路島」です。それから若手の会において副会長や会長の役職を務め、6年以上の年月が経ちました。これほど長い間、若手の会に関わるとは思っていませんでしたので、自分でも驚いています。これから若手のエネルギーを活かして活動していきたいと思えます。以下に活動報告や今後の予定などを記載します。

## ○活動報告

## 2024年3月9日に春の勉強会を開催

原生物学会若手の会では、2024年3月9日にオンライン上で春の勉強会を開催しました。2大学1研究所の5人の若手研究者が集まりました。少ない人数での開催となりましたが、その分全員が発言しやすく、活発な議論をすることができました。

前半ではそれぞれの研究内容について発表を行いました(図1)。発表中でも質疑応答を可能にし、さらに発表後の質疑応答時間も長くとることで、全員が疑問に思ったことを言えるようにしました。そのおかげもあり、全員がそれぞれの研究について理解でき、今後の研究活動にとって有益な情報を得ることができたと思えます。久しぶりに研究内容について聞く人や今後の展開を詳しく話す人などおいて、新しい発見があると同時に、議論がとても盛りまりました。

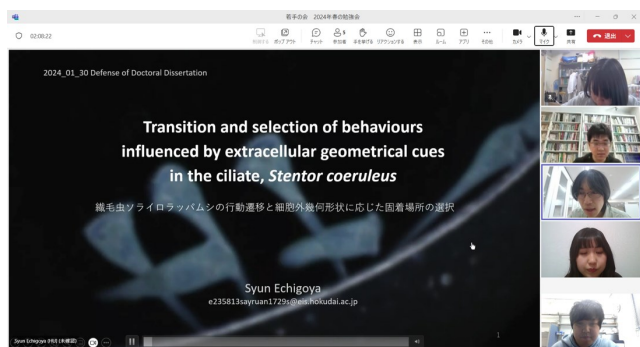


図1: 発表会の様子

後半では交流会を開催し、お互いを知ると同時に、研究生生活について語り合う場を設けました(図2)。やはり研究の世界では進学していくにつれて同学年の学生は少なくなります。研究活動を行う上での仲間を作るためにもこのような機会を設けました。交流会では、研究生生活の悩みや進学についての話を行い、また学術研究のための資金獲得などについての情報を共有しました。終始なごやかな雰囲気、会話が弾み、気づくと時間が過ぎていました。

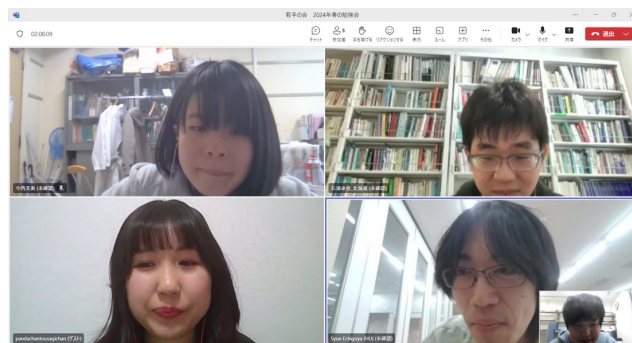


図2: 交流会の様子

今回の勉強会では年齢や学年に関係なく全員が発言でき、わからないことをすぐに聞ける雰囲気だったので、全員がそれぞれの研究についてしっかり理解することができました。自分と近い世代の若手研究者の研究内容について聞き、議論したことは、今後の研究活動におけるモチベーションの向上に繋がったと思えます。またこのような場を設けて若手研究者たちと研究について語り合いたいと思えます。

以下に今回の勉強会に参加してくれた方々の感想を記載します。

## 勉強会参加者の声

## 山本 桃花 会員 (参加4回目)

原生物に興味を持っている同世代の方たちと交流できる機会は刺激的で本当に楽しいです。発表についての感想やアドバイスなどをいただけるのも嬉しいです。皆さんが頑張っているのを見て、私ももっと頑張ろうと思える場なので定期的に若手の会企画に参加したいです。

## 今西 芙美 会員 (初参加)

初めて若手の会に参加して、自分が対象としている生物と似た性質をもつ生物に共感したり、聞いたことがある生物の行動の実験に驚きがあったりして、とても楽しかったです。また、同じ分野で博士課程に進学された方との交流は初めてであったので、研究生生活などのお話を実際に聞くことができ、とても為になりました。

## ○ コラム

## 研究のあるある

私は実験をしていると、「どうせこの実験も上手くいかない」と思い始めた時に良い結果が出る場合があります。研究計画を立てている時は上手くいくと思って計画をたてる人がほとんどだと思います。ただ、しっかり研究計画を立てたにも関わらず(立てたつもりかもしれませんが)、失敗の連続を繰り返すことがあります。そして失敗を繰り返すうちに、次の実験も失敗するという気持ちになります。しかし、その気持ちになった途端に実験が上手くいくことがあります。これは研究を行う人たちのあるあるではないでしょうか? 実験の神様がいて、無欲になると成功させてくれるのでしょうか? 不思議ですね。私はこれまで、実験を連続で失敗し、良い成



果が得られず、研究をやめたいと思ったことが何度かあります。しかし、それを乗り越えて、一枚の良い写真や一つの良いグラフ、新しい発見などがあると、これまでの苦労は全て忘れてとても研究が楽しくなります。この経験があるから研究はやめられないという気持ちになります。

## ○第 57 回原生生物学会大会において若手の会企画イベントを開催

山口県で開催される第 57 回原生生物学会大会において、若手の会企画のイベントを開催する予定です。前半では若手研究者たちで研究発表会を行いたいと思います。知識を深めつつ、今後の研究の参考になる機会になればと考えています。後半では、発表会場近くに原生生物の観察ブースを設置し、誰でも気軽に原生生物を見に来られる場を作りたいと考えています。実際に見る機会のない様々な原生生物を観察してお楽しみいただければと思います。詳しい内容や日時は決まり次第にご連絡させていただきます。

## ○若手の会役員募集中

原生生物学会若手の会では新しい若手の会役員を募集しています。若手の会では定期的に発表会や交流会を開催し、若手研究者同士で自身の研究内容やその活動につ

いて話す場を作っています。また日本原生生物学会大会では毎年、原生生物の観察ブースなどを設置し多くの方に見てもらいます。若手の会に入ると下記の素晴らしい利点があります。

- ・全国に若手研究者の仲間を作ることができる。
- ・様々な原生生物について知ることができる。
- ・様々な研究手法について知ることができる。
- ・先輩から研究のアドバイスをもらうことができる。
- ・研究発表の練習をすることができる。
- ・研究活動に関する悩みや愚痴を話すことができる。

あなたも若手の会に入り、全国に若手研究者仲間を作りにませんか？若手の会に入りたい、興味があるという方は島田 (yshimada@nips.ac.jp) までご連絡ください。

## ■若手の会役員 (2024年4月29日現在)

会長:	島田 雄斗 (生理学研究所)
副会長:	島田 真帆 (島根大学)
会計:	石浦 卓也 (北海道大学)
役員:	越後谷 駿 (北海道大学)
	面田 彩馨 (神戸大学)
	山本 桃花 (奈良女子大学)
	福田 直也 (島根大学)

## 本会記事

### 2023年度 総会議事録

日時：2023年10月21日(土) 12:15～13:35

会場：〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-22-1 全国障害者総合福祉センター 戸山サンライズ 大研修室

#### 議事

#### I 会長挨拶

#### II 報告事項

##### 1 庶務関係

福田 康弘 庶務より、以下の報告があった。

##### イ. 会員の異動 (2023年10月8日現在)

(昨年報告数)

賛助会員	1 団体	(1 団体)
名誉会員	9 名	(9 名)
永年会員	13 名	(13 名)
一般会員	94 名	(93 名)
学生通常会員	39 名	(39 名)
学生1年会員	2 名	(7 名)
準会員	30 名	(22 名)
合計	188 名	(184 名)

新入会 15 名, 退会 11 名

ロ. 学会賞等に関する細則が改訂されたことが報告された。改訂された箇所は下の下線で示された箇所である。なお改訂された細則は、次の会長および評議員選挙の後から施行される。

#### 略

12. 学会賞、教育賞および奨励賞の選考は、学会賞等選考委員会が原案を作成し、結果を評議員会に諮って受賞者を決定する。なお、各賞の候補者の原案ならびに推薦者に評議員が含まれる場合には、当該候補者とその推薦者を除く評議員会構成員により各賞の受賞者を決定する。会長は、学会賞受賞歴のある会員 3 名を学会賞等選考委員会委員の候補者として推薦し、評議員会の議を経た上でこれを委嘱する。委員長は委員から互選によって決定される。なお、学会賞等選考委員会委員は、評議員会構成員ではないものとする。委員の任期は当該委員を指名する会長の任期終了までとする。

ハ. 会員に対するメーリングリストでの配信において不達のエラーが多数あることが報告された。また会員に対して、登録を希望したメールアドレスを確認してほしいとの依頼があった。

#### 2 編集関係

島野 智之 英文誌編集長より、以下の報告があった。

イ. Journal of Protistology への投稿状況 (掲載 1 報, 審査中 1 報) が報告された。

ロ. 会員向けの ABS 講習会を開催したことが報告された。

内容：日本原生生物学会 ABS 講習会・いまさら、人にきけない「ABS 対応の基礎」

日程：2023年1月29日(日) 13時30分から1時間程度 (Zoom 開催)

演者：東京都立大学 牧野標本館 ABS 支援チーム 江口 克之 先生 (日本原生生物学会 ABS Advisory)

ハ. Journal of Protistology の課題について説明があった (編集用サーバーの導入, 編集委員の増員, 国内での投稿数, 編集委員会の各委員の役割の明確化, 投稿規定の変更や Web of Science の登録審査などの IF の取得までに要するもの)。

矢吹 彬憲 和文誌編集長より、以下の報告があった。

イ. 和文誌「原生生物」の発行状況 (6 巻 1 号の発刊) と今後の発刊予定について報告があった。また、2022 年の投稿状況について報告された。

ロ. 和文誌「原生生物」の課題について説明があった (和文誌が担うあるいは期待されている役割, 投稿の促進に向けた働きかけ)

#### 3 その他

イ. 沼田 治 学会賞等選考委員会委員長より、杉浦 真由美 会員「織毛虫ブレファリズマにおける有性生殖の分子機構の研究」が学会賞に選ばれたことが報告された。

ロ. 園部 誠司 月井国際会議参加促進支援運営委員会委員長より、月井国際会議参加促進支援金について申請が 5 件、採択が 5 件 (うち 2 件は辞退) だったことが報告された。採択者と派遣先を以下に記す。また募集要項が改訂され、報告書の書式も変更されたことが報告された。



1: 梁瀬 隆二 (Oxford Brookes University)

派遣先: The 2023 British Society for Parasitology Spring Meeting

2: 島田 雄斗 (自然科学研究機構: 申請時は高知大学)

派遣先: IX European Congress of Protistology

3: 千原 あかね (基礎生物学研究所)

派遣先: IX European Congress of Protistology

ハ. 保科 亮 学会活性化委員会委員長より報告があった。内容は、準会員の変動、準会員制度の広報活動、ミクロ生物館内「樋渡文庫」および学会 HP 内「柳生・重中 織毛虫図鑑」の整備状況、学会活性化につながる活動助成について「樋渡文庫」の整備に関する一件の申請があったことであった。

ニ. 園部 誠司 原生物分譲サービス WG 長より、分譲サービスの実績について報告があった。

ホ. 福田 康弘 国際委員より、永宗 喜三郎 会員が全ての国際委員の委任を受けて ISOP business meeting (2023 年 7 月 10 日 ECOP 内で開催、オーストラリア・ウィーン) に出席したことが報告された。ISOP business meeting の内容は、ISOP 会長の交代、Journal of Eukaryotic Microbiology の Editor-in-Chief が Joel Dacks (University of Alberta) に交代、Illustrated Guide to the Protozoa 2nd Ed. が ISOP HP で公開、前会長 (Patrick Keeling, University of British Columbia) による組織改革案の提示、次回 ISOP 大会の案内だった。また 2024 APCOP について、春本 晃江 APCOP 会長から紹介があった。

ヘ. 島野 智之 生物多様性会議委員より、日本分類学会連合第 22 回総会の報告があった。内容は、2023 ABS 問題・とくに DSI に対する利益配分、国立自然史博物館の新設、「標準和名問題検討 WG」の設置の提案についてであった。

ト. 西上 幸範 ネットワーク委員長より、ネットワーク委員会の活動報告があった。内容は、編集委員会からの要請に応じたウェブページ上の学会関連情報の更新について、メーリングリストなど、メールサーバーの運営・管理についてであった。

チ. 細谷 浩史 学術会議担当委員より日本学術会議の一年の動きについて説明があった。

リ. 島田 雄斗 若手の会会長より、若手の会の活動報告と会計報告があった。活動報告の内容は、年大会での原生物観察ブースの開設、若手学生間の交流会や勉強会、和文誌「原生物」若手の会通信の掲載、予定

されているオンライン研究発表会であった。

### III 審議事項

#### 1. 学会の事業年度改訂

福田 康弘 庶務から、本会が運営されるにあたって異なる 3 種類の期間 (事務年: 暦年, 会計年度: 総会の日から翌年の総会の前日まで, 会長・評議員・監事の任期: 学会の最終日の翌日から 3 年後の学会の最終日まで) が用いられており、これが作業を煩雑にさせていることなど、様々な問題をもたらしていることが説明された。そして学会の活動に適した事務局案として 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日を単位とする事業年度への一本化が提案された。また事業年度へ一本化する提案は評議員会で承認されており、同時に会計年度が変更されたことも説明された後、次の 2 点が審議された。1: 会則を変更し、本会の年度を 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる事業年度へ一本化すること。2: 本来は 3 年を任期とする会長・評議員・委員・監事について、次期のみ約 2 年半の任期とすること。審議するにあたり、事業年度化は本会が Affiliate society となる ISOP との連携に影響をおよぼす可能性が指摘されており、これについて本会は ISOP 事務局との連絡に注意を払って作業すると回答された。この後に審議が行われ、承認された。

(賛成・承認: 過半数以上)

#### 2 会計関係

##### イ. 2023 年度会計中間報告

岩本 政明 会計担当より会計年度の変更をうけて 2023 年度の会計の最終日は 2024 年 3 月 31 日となることが説明され、一般会計、特別会計 (国際交流基金)、特別会計 (基金)、特別会計 (月井雄二記念国際交流基金) の中間報告が行われた。また会計監査は次年度の総会で報告されることも説明された。

##### ロ. 2023 年度追加予算案について

岩本 政明 会計担当より、2023 年 10 月 22 日から 2024 年 3 月 31 日までの期間にあたる 2023 年度追加予算案を設ける必要性が生じたことが説明された後、追加予算案の内容について提案があった。審議の結果、2023 年度追加予算案は原案通り承認された (賛成・承認: 過半数以上)。

##### ハ. 2024 年度予算案について

岩本 政明 会計担当より 2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの 2024 年度予算案の説明と提案があった。審議の結果、原案通り承認された (賛成・承認: 過半数以上)。

IVその他

1 次期大会について

イ. 堀学会員より、次期(2024年、第57回大会)は、堀学会員を大会長として KDDI 維新ホールで開催予定であることが報告された。開催時期は 11月22～24日 を予定していることも報告された。

2023年度 日本原生生物学会一般会計中間報告

1. 収入の部

科目	予算額	収入額
前年度繰越金	4,094,410	4,094,410
学会費	735,000	346,000*1
寄附	-	-
雑収入	-	71,589*2
利息	22	27
計	4,829,432	4,512,026

\*1: 2023年度会費納入率 39.3% (2023.10.15現在)

\*2: 2022年度東京大会運営費補助金の未使用返還

2. 支出の部

科目	予算額	執行額
編集諸経費・謝金		
Journal of Protistology	100,000	27,500
原生生物	200,000	0
学会活性化委員会経費	200,000	0
庶務諸経費・謝金	50,000	80,356
会計諸経費・謝金	10,000	0
大会補助費	200,000	200,000
学会賞等経費	100,000	58,805
若手の会助成金	50,000	25,999
日本分類学会連合分担金	10,000	10,000
日本分類学会連合会議旅費	50,000	0
通信費 (サーバー利用料)	15,000	14,412
振替手数料	3,000	2,380
支出総計	988,000	419,452
次年度繰越金	3,841,432	4,092,574
計	4,829,432	4,512,026

2023年度 日本原生生物学会特別会計 (国際交流基金) 中間報告

1. 収入の部

科目	予算額	収入額
前年度繰越金	571,716	571,716
寄附 (*1)	-	0
利息	4	6
計	571,720	571,722

2. 支出の部

科目	予算額	執行額
外国人招待者謝金	-	0
国際学会参加援助金	250,000	0
振込手数料	-	0
支出総計	250,000	0
次年度繰越金	321,720	571,722
計	571,720	571,722

2023年度 日本原生生物学会特別会計 (基金) 中間報告

1. 収入の部

科目	予算額	収入額
前年度繰越金 (定期預金)	1,049,178	1,049,178
寄附	-	0
利息	10	15
計	1,049,188	1,049,193

2. 支出の部

科目	予算額	執行額
支出総計		0
次年度繰越金	1,049,188	1,049,193
計	1,049,188	1,049,193

2023年度 日本原生生物学会特別会計 (月井雄二記念国際交流基金) 中間報告

1. 収入の部

科目	予算額	収入額
前年度繰越金	9,248,552	9,248,552
寄附	-	-
返金	-	250,000
利息	78	115
計	9,248,630	9,498,667

2. 支出の部

科目	予算額	執行額
国際学会参加援助金	1,750,000	900,000
振込み手数料	-	1,420
支出総計	1,750,000	901,420
次年度繰越金	7,498,630	8,597,247
計	9,248,630	9,498,667

2023年度 日本原生生物学会一般会計追加予算案

1. 収入の部	
科目	予算額
2023年度残金	4,092,574
学会費 (*1)	462,500
利息	0
計	4,555,074

\*1: 2023年度会費の未納額.

2. 支出の部	
科目	予算額
編集諸経費・謝金	
Journal of Protistology	50,000
原生物	100,000
学会活性化委員会経費	300,000
庶務諸経費・謝金	25,000
会計諸経費・謝金	5,000
大会補助費	0
学会賞等経費	0
若手の会助成金	25,000
日本分類学会連合分担金	10,000
日本分類学会連合会議旅費	50,000
通信費 (サーバー利用料)	5,568
振替手数料	1,500
支出総計	572,068
次年度繰越金	3,983,006
計	4,555,074

2023年度 日本原生生物学会特別会計 (国際交流基金) 追加予算案

1. 収入の部	
科目	予算額
2023年度残金	571,722
寄附	-
利息	0
計	571,722

2. 支出の部	
科目	予算額
外国人招待者謝金	-
国際学会参加援助金	250,000
国際学会参加援助金振込手数料	440
支出総計	250,440
次年度繰越金	321,282
計	571,722

2023年度 日本原生生物学会特別会計 (基金) 追加予算案

1. 収入の部	
科目	予算額
前年度繰越金	1,049,193
利息	0
計	1,049,193

2. 支出の部	
科目	予算額
	-
支出総計	0
次年度繰越金	1,049,193
計	1,049,193

2023年度 日本原生生物学会特別会計 (月井雄二記念国際交流基金) 追加予算案

1. 収入の部	
科目	予算額
前年度繰越金	8,597,247
寄附	-
利息	0
計	8,597,247

2. 支出の部	
科目	予算額
国際学会参加援助金 (4件)	1,000,000
振込み手数料	1,760
支出総計	1,001,760
次年度繰越金	7,595,487
計	8,597,247

2024年度 日本原生生物学会一般会計 予算案

1. 収入の部	
科目	予算額
2023年度残金	3,983,006
学会費 (*1)	742,000
利息 (2023年度実績)	16
計	4,725,022

\*1: 2023年度会員数と同数としての概算.

2. 支出の部

科 目	予算額
編集諸経費・謝金	
Journal of Protistology	100,000
原生生物	250,000
学会活性化委員会経費	200,000
庶務諸経費・謝金	50,000
会計諸経費・謝金	10,000
大会補助費	200,000
学会賞等経費	40,000
若手の会助成金	50,000
日本分類学会連合分担金	10,000
日本分類学会連合会議旅費	50,000
通信費 (サーバー利用料)	15,000
振替手数料	3,000
支出総計	978,000
次年度繰越金	3,747,022
計	4,725,022

2024 年度 日本原生生物学会特別会計 (国際交流基金) 予算案

1. 収入の部

科 目	予算額
2023 年度残金	321,282
寄附	-
利息 (2023 年度実績)	4
計	321,286

2. 支出の部

科 目	予算額
外国人招待者謝金	-
国際学会参加援助金	-
国際学会参加援助金振込手数料	-
支出総計	0
次年度繰越金	321,286
計	321,286

2024 年度 日本原生生物学会特別会計 (基金) 予算案

1. 収入の部

科 目	予算額
前年度繰越金	1,049,193
利息 (2023 年度実績)	10
計	1,049,203

2. 支出の部

科 目	予算額
	-
支出総計	0
次年度繰越金	1,049,203
計	1,049,203

2024 年度 日本原生生物学会特別会計 (月井雄二記念国際交流基金) 予算案

1. 収入の部

科 目	予算額
前年度繰越金	7,595,487
寄附	-
利息 (2023 年度実績)	70
計	7,595,557

2. 支出の部

科 目	予算額
国際学会参加援助金 (7 件)	1,750,000
振込み手数料	1,760
支出総計	1,751,760
次年度繰越金	5,843,797
計	7,595,557

## 事務局からのお知らせ

庶務 福田 康弘 (東北大学) ・ 庶務補佐 杉浦 真由美 (奈良女子大学)

会員各位、平素より学会活動に御協力をいただき、篤く御礼を申し上げます。本会は名誉会員であった故月井雄二博士のご遺族の寄附による基金を活用した「月井雄二国際会議参加促進支援金」を設けております。これは、国際会議や海外の学術集会における若手研究者の研究発表を支援することが目的です。2024年は「PSA-ISOP-ISEP 2024 (アメリカ)」や「第5回アジア太平洋原生生物学会 (APCOP-V) (オーストラリ

ア)」などの国際学会が開催されます。これらの学会については既に応募は締め切りましたが、2025年にはICOP/ISEP Joint Meeting 2025 (韓国)なども開催されますので、本会の若手会員による積極的な月井基金への応募をお待ちしております。詳しくは学会ホームページにある募集要項をご覧ください。また不明点は事務局までお問合せください。

## 編集委員会からのお知らせ

「原生生物」編集委員・柴田 あいか (Arizona State University)

初夏の訪れ梅雨の時期かと思えます。遠い砂漠の地から日本の四季を恋しく思っています。インターネットで何不自由なく通信できる時代ですが、現地での学会参加が難しいのはさみしく思います。第57回大会も盛況でありますよう、また私も参加できますようお願いしています。原生生物7号1巻も学会員交流の場の一つとして手に取っていただければ幸いです。

次号、2024年11月発刊予定の和文誌「原生生物」第7巻第2号に掲載する原稿の締め切りは、9月下旬頃を予定しております。それに向けて、ぜひ原稿をご準備いただければ幸いです。

和文誌「原生生物」投稿規定は[こちら](#)

### 和文誌編集委員

原生生物編集委員長

矢吹 彬憲 (海洋研究開発機構)

柴田 あいか (Arizona State University)

内之宮 光紀 (電力中央研究所)

### 編集委員長

石田 正樹 (奈良教育大学)

会費等振り込み先

郵便振替口座

郵便振替口座番号：01300-6-103583

加入者名：日本原生生物学会

銀行振り込み口座

ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店番：139 カナ店名：イチサンキュウテン（139店）

当座貯金 口座番号：0103583

受取人カナ氏名：ニホンケッ ンセイセイブツ カイ ツカイ

---

原生生物（GENSEI-SEIBUTSU） 第7巻 第1号

2024年6月10日 発行

編集兼発行者：日本原生生物学会

発行所：日本原生生物学会

事務局：庶務担当 福田 康弘, 杉浦 真由美

E-mail: [gajsp@protistology.jp](mailto:gajsp@protistology.jp)

編集局：〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町 2-15

海洋研究開発機構 生態研究棟内

「原生生物」編集長：矢吹 彬憲

Tel/Fax: 046-867-9498/046-867-9525

E-mail: [yabukia@jamstec.go.jp](mailto:yabukia@jamstec.go.jp)

---